

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2012年12月）の予測

発表日：2013年2月1日（金）

～C I一致指数が大幅改善～

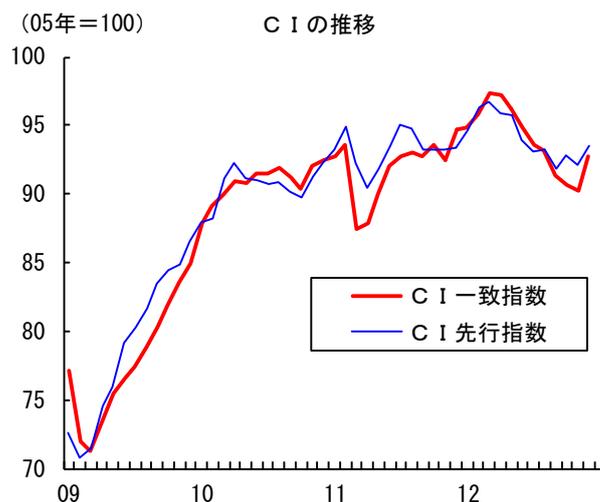
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から2月7日に公表される2012年12月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+2.5ポイントが予想される。9ヶ月振りの上昇であり、プラス幅も非常に大きい。採用系列のうち、マイナス寄与になったのは商業販売額（小売業）と商業販売額（卸売業）の2つだけで、残りの8系列はプラス寄与である。特に、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数、中小企業出荷指数など、生産・出荷関連指標の押し上げ寄与が大きかった。

先行きの見通しも明るい。昨日公表された鉱工業指数では、12年12月の実績が前月比で明確に上昇し、13年1月、2月の予測指数も着実な上昇が見込まれている。C I一致指数に生産関連の系列が多く採用されていることを踏まえると、C Iも先行き上昇が続く可能性が高いだろう。C I一致指数は、12年11月が底だったとみられる。このことは、12年4月に始まった景気後退局面が12年11月で終了したことを示唆している。

また、12月はC I先行指数も前月差+1.6ポイントと上昇が予想される。先行指数は12年9月を底として、均してみれば改善傾向にあると思われる。この点も、先行きの景気が回復する可能性が高いことを示唆する材料の一つである。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「悪化」が維持されるだろう。C I一致指数の3ヶ月移動平均前月差は12年12月にプラスに転じるが、基調判断の上方修正の基準を満たすまでには至らない。ただし、3月7日に公表される13年1月分においては基準を満たす¹可能性が高く、基調判断は「下げ止まり」に上方修正される可能性が高い。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2012年12月は第一生命経済研究所による予測値

¹ 13年1月分が僅かでも前月差プラスになれば、上方修正の基準を満たす。生産予測指数がプラスであることを踏まえると、達成の可能性は高いだろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。